

観光交通論 II

科目ナンパリング MAN-210

選択必修 2単位

岡崎 好典

1. 授業の概要(ねらい)

鉄道をはじめ、各交通事業者の観光に向けた取り込みを検討し、現状と今後の課題について研究します。また海外の鉄道などについても紹介します。本講義ではまた、地方の赤字路線の問題を検討し、学生に生き残り策を考え出してもらうなど、交通事業者の厳しい経営状況を理解していただきます。まだ、確定はしていませんが、必要に応じて、交通事業者をゲストスピーカーとして招聘し、お話を聞くことも検討しています。

2. 授業の到達目標

①鉄道事業者の事例を検討し、観光という視点から逆境にある地方鉄道の再生・活性化策を提案できる。
②学生が20年後、赤字鉄道会社の社長・鉄道本部長・観光部長になったと仮想して、地元の現状の深刻さ、人口減少の影響を真摯な態度で受け止め、若さで夢のある意見を持つことができる。

3. 成績評価の方法および基準

中間レポート(30%)、リアクションペーパー(20%)、期末テスト(30%)、授業参加態度(20%)の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストはなし、適宜資料を配布する。

参考文献

塩見英治・堀雅通・島川崇・小島克己編著

『観光交通ビジネス』 成山堂書店

佐藤信之 著 『鉄道会社の経営』 中央公論新社

5. 準備学修の内容

各回授業の最後に次回扱うテーマを示すと同時に、事前に見ておくべき資料等を示すので、問題意識を持てるよう、内容を確認すること。また、各回の授業内容を中心にレポートの課題を設定するので、各回の授業内容を十分に復習するとともに、自ら関係資料の調査等を行い、レポート作成に備えること。

6. その他履修上の注意事項

鉄道・航空など交通機関のニュースは身近でとても多い。興味を持って、新聞やニュースなどを読み、積極的な態度で講義に参加してほしい。欠席が授業回数の1/3を超えた学生は成績評価の対象外です。遅刻・早退も授業参加態度に反映させます。また、リアクションペーパー等提出物の期限遅れも成績評価で減点します。

最後に今期は14回目がLMSによるオンライン授業となるので、各回の授業内容を注意して読んで下さい。

7. 授業内容

【第1回】 イントロダクション、本講義の全体像などの説明

【第2回】 地方鉄道のあり方に関する提言

【第3回】 鉄道開通150周年(1)

【第4回】 鉄道開通150周年(2)

【第5回】 鉄道事業者の観光取り組み(1)

【第6回】 鉄道事業者の観光取り組み(2)

【第7回】 中間のまとめ(中間レポート提出)

【第8回】 鉄道事業者の観光取り組み(3) (GS 予定)

【第9回】 バス事業者の観光取り組み (GS 予定)

【第10回】 その他交通事業者の観光取り組み(1)

【第11回】 その他交通事業者の観光取り組み(2)

【第12回】 スローモビリティと観光

【第13回】 観光交通の営業戦略 (GS 予定)

【第14回】 観光交通論のまとめ(LMSによるオンライン授業)

【第15回】 期末テストと全体まとめ 発表

※授業の計画はあくまでも当初の予定であり、COVID-19の状況、講師の都合・授業進捗によっては変更されることがある。